

# 「農」ある暮らし、してみませんか？

問い合わせ先 市役所第2庁舎農業振興課 ☎ 0857-20-3234

「野菜や花を栽培してみたいけど、土地がない」「庭やベランダでのガーデニングでは物足りない」本市では、そんな声にお応えして、どなたでもご利用いただける市民農園を開設しています。休日や余暇を利用して、野菜や花を育てる大変さや、収穫の喜びを感じる「農」ある暮らしをしてみませんか。

## 吉岡温泉市民農園貸し出し中！ ところ

吉岡温泉街から南（山側）へ約600㌔の、田園の中にあります。

### 設備

給水施設、休憩舎、トイレ、駐車場をご自由にご利用いただけます。

### 年間利用料

5000円／33平方㌔（10坪）

### 利用申し込み方法

問い合わせ先に直接おいください。

※先着順。空き区画がなくなり次第、募集を終了します。

## まずは「小松菜」に挑戦！

小松菜は、暑さ寒さに強く、短期間で簡単に育てることができる野菜です。



●**作期** 年中栽培できます。夏場は種をまいてから25～30日で収穫できます。

●**種まき** 株間3～5㌔、条間10～15㌔の感覚で、筋まきします。覆土は薄めに。土が種と密着するように、しっかり鎮圧してください。

●**水やり** 芽が出る前は十分に水をやり、芽が出てからは、土の乾き具合や天候を見て、適時行います。

### ●間引き

1回目：本葉が1～2枚のころ、2～3㌔間隔

2回目：本葉が4～5枚のころ、4～5㌔間隔

●**防除** 虫がつきやすいので、防虫ネットを利用します。必要に応じて薬剤の散布を行います。

●**収穫** 草丈が20㌔くらいになったら収穫します。収穫が遅れると葉や茎が硬くなるので、注意してください。



# 松くい虫防除の薬剤散布にご協力を

問い合わせ先 市役所第2庁舎林務水産課 ☎ 0857-20-3235  
福部町総合支所産業建設課 ☎ 0857-75-2814

松くい虫防除のため、ヘリコプターや散布機による薬剤散布を行います。

区域：賀露町地内、地上散布

日時：第1回 5月31日（月）5:00～12:00 第2回 6月21日（月）5:00～12:00

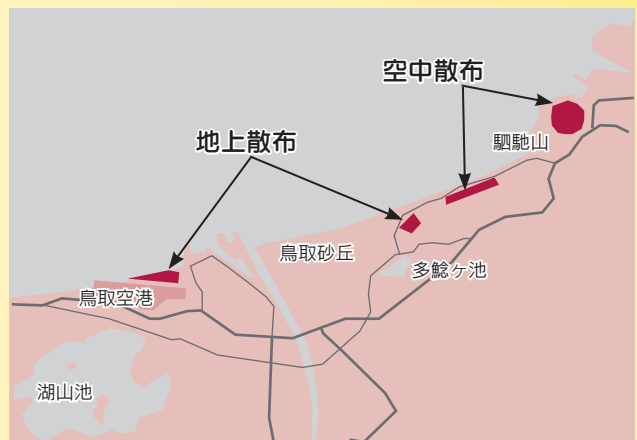
区域：福部町岩戸・細川・海士・湯山地内、空中・地上散布

日時：第1回 6月4日（金）5:00～12:00 第2回 6月25日（金）5:00～12:00

※気象条件などにより、予定が変更になる場合があります。

## 【お願い】

- 薬剤散布した山林に入ると、頭痛やめまいが起きることがあります。散布後1週間程度は散布区域への入山を控えてください。
  - ヘリコプターの発着場所に近寄らないでください。
  - 散布区域への駐車は避けてください。
  - 散布区域での山菜採りは散布前日までをお願いします。
  - 散布区域付近にお住まいの人は、当日の午前中は洗濯物を屋外に干さないようにしてください。
- ※使用する薬剤は、果樹園や田畑でも広く使用されるスミパイン乳剤（MEP80）を水で薄めたものです。



# 知って、語って、つながって

気づくこと、そして行動すること

問い合わせ先 市役所本庁舎人権推進課 ☎ 0857-20-3224



布教活動を始めたある日、

私は差別をしない」という思いで部落差別の問題を見つめていました。

## 差別は個人の問題？

鳥取県東部キリスト教連合

牧師 佐藤勝徳さとうかつのり

## 部落差別の現実

私は、1974年に大阪から鳥取に牧師として赴任してきました。

赴任後間もなく、同和教育の懇談会に出席し、被差別部落のみなさんの体験を聞いて、初めて部落差別の深刻さを知ることとなりましたが、その時は「私は神の平等の愛を信じているから、

鳥取県では、7月10日から8月9日までの1カ月間を「部落解放月間」と定めています。本市では、期間中の7月28日に、「第37回人権尊重社会を実現する鳥取市民集会」を開催します。今回は、この集會に先立って、鳥取市人権教育協議会社会教育部会の中で、長年にわたって同和教育をはじめさまざまな人権問題の解決のための活動をされている鳥取県東部キリスト教連合の佐藤勝徳さんに、「自身の思いを寄せていただきました。」

新婚さんから新居を探してほしいとの依頼がありました。同和地区内に建てられた新築の町営住宅を見つけたので、そこを勧めてみたのですが、断られてしまいました。

その時に改めて、なるほどこれが部落差別の現実かと思いました。それならばと逆に私は正義感に燃え、私たち家族がそこに引越すことにしたので。引越後は、それまで以上に同和教育に関わることが多くなりましたが、あくまでも「私は差別をしていない」という思いで関わっていたために、差別的な発言を批判したり、同和教育解決の取り組み方法に間違いがあると思うと批判したりしていました。

## 心に埋め込まれる予断と偏見

そんな私がある時、被差別

部落を戸別訪問をしていた時に、玄関の呼び鈴を押すのをためらっている自分にふと気づきました。「何を恐れるんや」。疑問を持ち、これまでの人生を振り返ってみました。私は、在日朝鮮人や被差別部落の人たちが住む大阪の下町に生まれ、父母をはじめいろいろな人から予断と偏見による差別的な発言を聞かされてきました。それによって私の心にも予断と偏見が、いつしか埋め込まれていったのです。

その事に気づいた時に、私自身が被差別部落の人たちに対して差別者だったと初めて理解できました。その時から、同和教育は私を差別する心から解放するためであると理解し、図書館などで学習を重ねるとともに、PTAの研修に積極的に参加し、教会の研修会などで取り組むようになりました。

## 日本の社会に潜む問題

また、差別の歴史を学ぶ中で、現代日本の文化や社会は、部落差別をはじめとするさまざまな差別を助長し、温存する構造があることに気づきま

した。私は予断と偏見を埋め込まれてきたことにより、いつの間にか自分自身が差別構造の中に埋め込まれ、部落差別を温存し助長していたのです。

また、予断と偏見で人をさげすみ、差別する行為は、私たち日本人を真の幸福から遠ざける悲しいことですので、部落差別は単なる個人倫理の問題でなく、日本の社会問題として、みんなで取り組むべき課題であることも見えてきました。

## 互いが共存できる社会へ

日本の文化に差別する構造があるという指摘は、日本の文化を否定するものではありません。日本の文化にそのような弱点があることに共気づき、そして、その弱点の克服に努力しながら、お互いが兄弟姉妹として共存できる社会をめざすことが、同和教育の本来の目的だと思っています。同和教育は日本が生んだ宝ではないでしょうか。知って、語って、そしてつながっていきましょう。